

O B 会 報

第八号

横浜国立大学

ワンダーフォーグル部
O B 会 発 行
1967.11.23

第一回夏合宿

概要

一、期日 八月十八日 / 二十日
二、場所 木曾御岳・開田高原
三、参加者

Aコース	L嘉納(1)	宮崎(2)
岩上(2)	時田(5)	密島(6)
Bコース	L江崎(3)	諸節(3)
石田(3)		

第一回夏合宿	1
木曾御嶽と開田のこと	
Aコース紀行	2
宮崎	2
B隊始末記	2
江崎	4

もくじ

現役問題	8
事務局会	
現役分裂事件についての経過	
事件の問題点	
春合宿事故を顧て	
現役に対する要望	

山小屋委報告	8
郡司	
月例ワンダーリング	
成吉思汗山行	
北から南から	
トピックス	
井上	
住所変更のお知らせ	

十九日 (十八日夜行)	11
二十日 開田キャンプ場	9
新宿 木曾福島 名古屋 横浜	8
木曾福島	
木曾御岳 開田キャンプ場	

木曾御岳 開田キャンプ場	7
(泊)	16
二十一日 Aコースに同じ	15
	13
	12

木曾御獄と開田のこと 宮崎 (二期)

私が初めて開田を訪ねたのは、大学を卒業した年の秋十一月初めの連休のことだつた。世紀の悲恋といわれ、世界の話題を一身に集めた傷心のタウンゼント大佐が一人逍遙したのがこの開田高原だつたそうだ。そんなことがその頃の私を何となく開田に向わせたのである。この時はひどい雨に降られ、又開田の旅館はどこも満員でことわられるなど惨々だつた。しかし木曾福島の宿でシトシトと降る時雨のトレモロを、木曾川の滝々とした流れを聞きながら、炬燵に足をつつ込み、中仙道木曾路の宿場で初冬の旅情をしみじみと味わつた。

それから二年後の秋にもう一度こゝを訪れた。この時は

宿も予約しておいたし、天気にも恵まれ、地蔵峠から把の沢、西野峠を越えて西野への高原と峰歩きは、カサコソとなる落葉に、ひつそりと咲き残つたマツムシ草に全く快適な旅だつた。宿では手打らの高原ソバに舌戻を打つた。翌日は西野から南へ、初雪をかぶつたキリマンジャロを右に眺めながら、明るい高原を黒沢まで歩いた。

翌年の五月、今度は高山線に乗つて飛驒側から御獄の懷のトレモロを、木曾川の滝々とした流れを聞きながら、炬燵に足をつつ込み、中仙道木曾路の宿場で初冬の旅情をしみじみと味わつた。

さらに高山、飛驒古川、富山へと足をのばした。

そして今度初めて御獄の頂上を踏んだのである。

最近の上高地、北アルプスの脇わりに比べて、この御獄周辺にはまだまだ静かな処が残されているようだ。今度訪れる時は濁川、三浦湖へと思つている。

＊Aコース紀行

宮崎 (二期)

久し振りに、新宿発の夜行列車に大きなザックとともに乗り込んだご機嫌な五人の男達。昔と変わつたことといえば、学生時代は慎しみ深く長距離に着くまで終わりはなかつた。こうして第一回のB会合宿のA班はスタートしたのである。出発に先だつての食料の買出ししがまた大変だつた。K先生、I先生と小生の三人が、夕餉の支度の小母族で賑わう弘明寺商店街のスーパーマーケット、肉屋、八百屋と回つて歩いた。そして大学のK先生の研究室で、共同装備と食

席も、グループのお嬢さん方が乗り込んでくると、「詰めてあげましょ」とコンペートメントを明けてやる、相変わらずのフェミニスト振りを示す。そして昔に劣らぬ豊富な話題と深い教養を交換し合う。小生の提起した問題児の問題も、I先生の「問題児の心理と補導について」の経験を通してのご高説に、小生も得るところ大であつた。あとはK先生の黛ジュンの歌から天下国家論まで、ついて塩尻に着くまで終わりはなかつた。

料を三人で分担する。おかげでロートル三人が三〇キロ近い荷物を背負う羽目になつた。木曾福島からは小生にうつては三度目の畠田行きのバスにゆられる。ブライ族のハイカーにバスを降りる場所を決めてやつたり、又君の縁談を心配してやつたり、また窓外の御嶽乗鞍、中央の山々を眺めたりの懶やかさである。しかしそのうちに腹が空いてきて朝食の弁当を買つてくるのを忘れた事に気がついた。結局、バスを降りた所で、弁当を持つてきた二人分を五人で分けて食べる。それから近くの農家で高原キャベツを分けてもらひ、キューリ、トマトを買ひ込む。高原はススキが穂を出し、マツムシ草が咲き、風は早くも秋の風だつた。一時近くになつてやつと重い荷物を担ぎあげてキャンプ場に向かう。K先生は冬山に備え

てのトレーニングと称して、相変わらずのタフ振りを示す。キャンプ場は意外に遠く、腹がへつてきても水だけしか飲ませてもらえなかつた。途中畑の中の一本道に水道が見つかつて、怪をひねるとガスとともに、シニッショニンと生温い水が出てきた。「水腹も一時」とこれを腹につめる。あとで考れてみると、どうも田んぼからの漏水を飲まされたようだ。一時過ぎにやつとキャンプ場にたどり着いた。T君とM君の大活躍によつて、最高に美味しいヤキソバができる上り、われわれ五人は復活したのである。キャンプ場の静かなことと、男ばかりなものだから、昼食はまさに裸族の会食だつた。

それからすぐ夕食の準備にとりかかる。現役時代には何もできなかつたK先生、奥さんをもらい最近お嬢さんが生まれたと聞いているが、このK先生が飯盒のご飯を上手に炊いてくれたのは一体どういうことぞ／一同首をかしげる。献立は特製スタミナ料理である。ドラム缶の底で作った特製鍋による成吉思汗料理肉よりもニンニクの方が多いくらいのスタミナ焼きは、その芳香によつて近くのキャンバーの鼻を大いに刺激したようだ。とにかくわれわれは翌日の御嶽登頂に備えて、ガリガリガーリックを食つた。食つた量が年に比例したのはなるほどとうなずけた。そしてこのとき、九月の月例Wは丹沢でのアンコールが決められた。今合宿参加者と九月月例の参加者をよくごらん下さい。

てしまつて出発が予定よりも一時間遅れてしまった。しかし一同元気に朝露を踏んで登る。北八ツ岳によく似た、苔むした岩と木の根の原始林の薄暗い道を登る。喬木帯を抜けるころより可愛らしい色とりどりの高山食物に迎えられ、途中昨夕のスタミナ料理の薬石の効なく、テントへ帰ると泣き事を言つた男も急に元気づき（もつともガーリックはこのころ効いてきた）、三の池からのガレ場を駆け登る。結局頂上でのBコース江崎隊との約束の時間に遅れること三〇分、十二時半にめでたく剣ヶ峰のランデブーは成功した。

夜の更けるのも忘れていた。

焚火もつきる頃、唐松林の上

に月が出て、第一回〇B合宿

をもり上げてくれた。

最終日は明け方から雨にな

つた。そしてキャンプ場から

西野までの雨の高原歩きも楽

しいものだつた。マツムシ草、

女郎花、吾亦紅などが白い雨

足にうたれ、唐松の枝先から

は大きな水滴がしたたる。こ

れが首すじなどへとび込んで

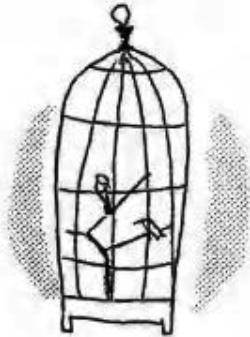
思わず首をすくめたりしなが

らの高原歩きは、早や秋の訪

れ近い御纏、開田の合宿のフ

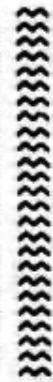
ィナーレにふさわしいものに

思われた。



B 隊始末記

江崎 (三五期)



金曜日の夕刻の列車は夏山

の最盛期も過ぎたためか、案

外と書いて樂に坐れる。

久し振りに顔を合わせた石田

嬢、諸節嬢と賑やかに語り合

い、種は教育ママの事、早く

も世代の差を感じ始めた現在

の大学生とわれわれとの意識、

ふるまいの相違など、さては

われわれサラリーマンの立場

から先生の立場を羨んだり。

ワイワイ言つているうちに

弁当を買い忘れ、車内のビュ

ッフェは麺類のみ、甲府駅は

もう売つておらず、やつとあ

りつけたのが乗り換え駅の塩

尻。ここで買った釜飯と甲府

のパンでどうやら翌日の昼飯

まで確保したわけで、まずひ

と安心。塩尻二三時四〇分の

大阪行急行で木曾福島には○時三八分に着いてしまつた。バスの切符を売り始めるのが二時頃だという話なので、駅のベンチへ。昔取つたきね柄（？）でゴロリと横になる。

深夜の山麓、さすがに涼しい。目が醒めると駅前でもう並ん

で切符を買つてゐる。時計を見ると二時半。しまつた、遅れをとつたかとすぐ並んで購入するとわれわれの整理券は二六番目からでホントする。

周囲の大勢の若者はほとんど上高地へ行くらしく乗鞍方面は割に少ない。バスは三時ちょっと前に出、リクライニングシートなのでこれは快適とはか

りすぐにウトウト。七合目の

と前に出、リクライニングシ

ートなのでこれは快適とはか

りりすぐに出でます。

田原山荘前にほうり出された

のが五時前で、ゾクゾクする

ほど寒い。小屋（と言つても

大きな旅館のよう）に灯がつ

いてゐるので足を向けてみる

が、まだ営業していないとい

うのでガタガタ震えていてもしょうがエエと朝食はおあずけにして歩き出す。ここは他にも建築中でのつかいホテルのようなものもあり、来シ一ズンあたりからガツボガツボと儲けるのだろう。道はかなり広く、平坦で所々に散策道などもあつて、のんびりぶらつくのによさそう。ただ残念な事にもう日も出る頃だらうと思われるのにガスで視界は悪く、どこに何があるのか初めてのわれわれには何もわからないのでただ黙々と歩を進めると七合目半の小さな社の前に出、ここで塩尻の釜飯が腹の中に収まる。

このあたりからやつと山道ら

しく細い登り道になり、時々ガスの切れ間から上方がチラリチラリと思わせぶりに見える。われわれの前後に○○講だの○○会だのといつたおじさん、おばさん連中が登る。

口ばかり達者で足の方があもた

ついている年輩の男、威勢よく白装束に金剛杖で、六根清淨をとなえながら登るオヤジ、地元の人手をとられながらゆづくりと下つてくる老婆などで、われわれ山男、山女の方が小さくなつて登る。またわれわれとしても睡眠不足で調子はそんなによくなく、二十分に一回位休みながらのんびりと登る。出発してから一時間四五分位でほんのちよつぱりだが清冽な湧水の出ているところに来、のどを潤す。

この付近にはチングルマ、イワカガミ、コバイケイソウ、イワギキヨウなどあり、それに挨拶をしてくる。

この後、王滝山頂手前のお花畠でもイワツメクサ、ヨツバシオガマ、オンタデ、コガネギクなどあり、本を片手にあれは何、これは何とやつて、これらの名を覚えたわけであ

る。

ここから小屋の裏に廻ると剣ヶ峰頂上がすぐ眼前に立ちふさがっている。ああこれならもうすぐだとまた記念撮影などして時間をつぶす。

最後の百二段ある階段をフ

ーフー言いながら登りつめ、

鳥居をくぐつたのがちょうど九時であつた。せつかく頂上へきたのに視界は張けず、時々ガスが切れてすぐ下の二の池が見える程度で、残念至極。

あまり広くない頂上もかなり人間嫌がうようよしているの

で傍の小屋で休ませてもらうことにする。お茶をもらつて菓子をつまみ、ゆづくりと昼寝をし、先生方は教え児達に手紙を書き、かくして待てどうらせどA隊のメンバーは全く現われる気配が無い。十二時近くになつて小屋の前を行つたり来たりして、ガスの切れ間にわが愛する頬もしき面

々の姿を捲すがダメ。諦めて

先に昼食をとつて下れば途中で会うかもしれないと、袖々と食事を始めると、小屋の戸を開けて「ヤア、いた、いた」と岩上先生の張りのある声が聞えホッとする。時に十二時四〇分頃。

フルメンバーの八人が揃つ

て頂上で記念撮影し、われわれ三人は荷物が重いので足手まといになつても悪いと思つて一足先に下り始める。

ところがこちらの殊勝な氣持を知つてからはずか、いつまでたつても後発隊はやつてこない。二の池を過ぎ、花な

どをながめながら三の池も過

ぎ、アザミの刺を避け、さて

ここから一時間程でやつと待ちこがれたテント村にたどりついた次第である。

夏合宿に参加して

諸節 (三期)

の所で大休止をし、菓子をバリバリ食い、水をガブガブ飲み、某女史は靴まで脱いでハダシになつて座り込んでしまう。漸く嘉納さんの姿が現われ、続いて残りの四人もきたのでやつとこちらの口もつら回転し出し、深山が時をぬ喧嘩につつまれる(?)。(こちらの道は不便な事もあって通る人も少なく、ましてジイサン、バアサンなど登るはずがない)

ここから一時間程でやつと待ちこがれたテント村にたどりついた次第である。

かれんな姿のいいわかがみ、あおのつがさくら、紫のあさやかな岩ぎきょう、白いこばいせいそう、かわいいチング

ルマなど、立山合宿以来名前

も忘れかけていたこれらの高
山植物がいちめんに咲きみだ
れるお花畠を眼前にすると、
「ああ、山にきてよかつた」

という思いがした。

学生時代から、体力には自
信がなくて、いつもへばつて
しまうのだが、自然の美しさ
に見入つていると苦しいこと
など忘れてしまう。今回のワ
ンデルロBの初の試みである
合宿もふだん山歩きをしない
ので、行けるかどうか心配だ
ったが、幸い同行者が、江崎
さん、石田さんと同期のメン
バーだつたし、先発の方々が
テント、食糧などを運んで下
さつたので、荷物もなく、気
軽に楽しく行くことができた。

お花を心ゆくまでながめ、
名前を調べたりして、十五分
行つては十分休み、歩く時間
より休む方が多いくらいの、
のんびりしたベースでのぼつ

ていった。

私達は王滝コースで、バス
が七合目まで上り、頂上まで
はあと八六〇メートルの高さをのぼ
ればよい。それだけに一番に
ぎわうコースである。白装束
の信者、老人、子ども、中年
のおばさんなど、信仰の山と
して、富士山、立山、白山などと並んで、夏は登山者の行列が続いていた。

朝五時バス終点田ノ原を出

発して、頂上に着いたのが九

時だった。剣ヶ峰頂上には御
嶽神社が祭られ、信者が参拝
していた。緒のため見晴しは
よくなかったが、頂上にある
鐘の音がカーンカーンと気持ち
よく響き、疲れをいやしてくれた。

開田組の人達と十二時に会
う約束だつたので、それまで
頂上下の小屋で待つことにし
た。夜ほとんど眠つていなか
いで、小屋でヤツケやセーター

などを着て昼寝をした。十二

度という気温は寒さを感じさせた。開田組の人達と、十二時を少しまわつた頃合流した。

密島（六期）

蒜を食うと

走りたくなる合宿

バスを降り、久方ぶりのニ
コヨンの感触にワンデル精神
が全身にみなぎってきたような快感
を覚えて御嶽を目指して歩を切
つたが、三十分で着くはずの
天場がいつこうに現われない。
CJL嘉納氏はトットコ先に行
つてしまふ。八月も末と言え
ど御天道様はやけに照りつけ、
早くもこちとら青息吐息。

一時間半余りしてからうじ
て天場にたどり着く。昼飯に
焼ソバを作り、続いて夕飯の
仕度にかかる。陽もかたむく
頃、宮崎氏持参のスペシャル

アイティーのまわりの円がも
と大きく広がつて、歌声がもつ
とひびいてほしいと思わず
にはいられなかつた。

成吉思汗鍋を囲む。ジュージ
ューと肉の焼ける音が深山に
こだまはしなかつたが、その
臭たるや眞も木から落ちるほど
食欲をそそる。それもその

はず、大蒜（ニンニク）を充分に入れてあるのだから、皆それせにハーハー、フーフー言いながら、舌づつみを打つので、せつかく寝かけたタヌキの小坊主が起きて、月を見ながら踊りだしたのではないか。昼間のバテぶりはどこへやら、諸氏喜々として鍋をつつく。そのうち嘉納氏、丸のままのニンニクを焼いて口にほうりこんだ。岩上、宮崎両氏もそれに続く。時田氏ややためらいがち。二つ三つとなると顔を油ぎらせて水をガブガブやつてハアーハアーと息をつく。全身カツカツとして話もエキサイトしてはすむ。その時突然某氏立ち上がり、ヒーヒー言いながら一座の回りを走り出した。いや、ニンニクの効果はすげえ、すげえ。

ついつられて、こちとらも口にほうり込む。暑いので舌の上を六回ころがして奥歯でガリッとかむと、のど苗あたりまでヒリヒリする。目をつむつて六回ガリガリとかんでゴクッと飲み込んだ。三回だけハアハアハアと息をはいたら、思わず腰が浮いた。あやうく走り出すところをどうにかこらえてポリタンを口の中に押し込んで水を流し込んだ。中味が石油でもベンジンでも気が付きあしない。これじゃ現役に「ボリタン」を使う前の中味を確認すれば事故は起らぬはずだ」なんて言えたが、惜むらくは、ここでニクニクのストックが切れてしまつた。もしもまだニンニクがあつたなら全員で天場を走り回つたことだろう。ニンニクの効果は翌日にもあらわれた。

◎ 水戸線に川島という駅があります。駅のすぐそばが鬼怒川で、川べりに東京でもちよつとやそつとでは食べられないような味のよい料理を出してくれるクラブがあります。

◎ 水戸線に川島という駅があります。駅のすぐそばが鬼怒川で、川べりに東京でもちよつとやそつとでは食べられないような味のよい料理を出してくれるクラブがあります。

◎ 水戸線に川島という駅があります。駅のすぐそばが鬼怒川で、川べりに東京でもちよつとやそつとでは食べられないような味のよい料理を出してくれるクラブがあります。

につめて全員頂上に達したと、いう事実がこのことを如実に語っているではないか。

尚、ニンニク礼賛説は身をもつてその効力を知つた氏が

発表されることと思われるの

で、小生ごとき若輩がここに披露するまでもなかつたかも知れぬ。

トピックス

焼の特徴は、あの釜にある褐色だそうです。そこで私も益子でその褐色のトックリとサカズキを買って、行きつけのすし屋にあげました。

そこで一杯ネ！

◎ 北関東の春合宿をしのんで栎木の片田舎を歩いていたら、校庭のちょうど真中に大きな紅葉の木がでんとかえていた。小学校があ

雨の日は傘になつてその下で遊べそうです。

（三期
井上）

を買う事があります。時の釜めしの釜はどこからやつてくるのかと思つたら、栃木の益子からでした。益子

き帰りに、時々釜めし

つたなら全員で天場を走り回つたことだろう。ニンニクの効果は翌日にもあらわれた。

○ 9月の古参を含めたバー

バーが六時間の登りを五時間

現役分裂事件についての経過

本年六月十七日 経済学部

のワンダーフォーゲル部室に

改新同盟という名のもとに一枚の声明文がはり出されたこ

とから騒ぎが表面化した。声

明文は渡部主将、和田副将ら

が、現在の部の状態に満足で

きをいから、夏合宿はともか

く行なうが、その後九月に辞

任するというものであつた。

しかしながら、このようなことが起こることはすでに半年も前から予感されていたことであつた。すなわち今年の三年執行部の人事を決めるときには個人の欲望の満足をいかに集団の中で実現させてゆくかに、すでに明らかに意見の異なるいくつかのグループが

存在したのである。

渡部主将らの意見はほど次のようなものである。「ワンダーフォーゲルとは何か?

それは人間的なものの尊重、

心の自由の追求の精神をもつての集団的移動生活であると私は思う。従つて野であれ山であれ、海外であれ、どんな場所でも一回勝負の真剣な姿勢を持ち続けて歩くことである。しかし又ワンダーフォーゲルはサークルである以上、サークルは統一体であるから、前述の態度を基本とした上で、何らかの統一が必要であつて、種々、多様の現状をそのまま認めることはできない。サークルと

これに対しても多くの他の三年部員は、このような意見が部の活動方針となると精神的な束縛をうけることになると考へ、あるものは横極的に反対したが、他のものは無気力な無関心さを示して消極的に反対した。このように多くの三年部員は団体活動における精神の止揚を高く評価せず、

三年部員は三年生のみによるリーダー会に集められ、総会はその決定報告を開く会になつており、

三年独裁の閉鎖的機構であつて、前述の意見の対立も専ら三年生内部の事件であり、総会において突然そのような末期的分裂状態を知らされた他

学年の部員が、三年全体を不信任したものといえよう。

六月二十日に第一回再建準備委員会が開かれ、これにはO B側も参加した。六月二七日O B会事務局は、事態措収にのり出すことを決定し、新

間意識の高揚があり、これをこそ私達が求めているものである。この点からみて過去の低迷化の集積としての今年度の活動現状を考えてみても、

低迷化の集積としての今年度の活動現状を考えてみても、

この問題をめぐつて紛糾し、

総会はついに三年生のリーダー全員を罷免し、その後の処置を再建準備委員会に任せた。

このようなことに発展したのは、現役のすべての機能が三年生のみによるリーダー会に集められ、総会はその決定報告を開く会になつており、

三年独裁の閉鎖的機構であつて、前述の意見の対立も専ら三年生内部の事件であり、総会において突然そのような末期的分裂状態を知らされた他

学年の部員が、三年全体を不信任したものといえよう。

六月二十日に第一回再建準備委員会が開かれ、これにはO B側も参加した。六月二七日O B会事務局は、事態措収にのり出すことを決定し、新

しい組織を提案することとした。

七月二日に再び総会が開かれ、OB 計提案に沿った新しい組織を選択した。渡部、和田ら5名は部を去った。

新組織にあつては、従来の組織の欠點として

(1)三年生独裁

(2)三年の構成するY会は三年

のほど全員が入つており、

全員の合議でのみ事が決し、

役員は名のみで、責任の所

在もはつきりせず、意志決

定は遅延をきわめ、機動性

をまったく欠いた。

(3)リーダー会本来の研究がそ

のために何らなされなかつ

た。

(1)学年独裁の排除、総会の權

威復活

(2)執行機関における人數の削

減、機動性の向上

(3)ワンドラング技術の向上のためリーダー会は本来の目

的のみを行なう。

このため新しく「委員会」をつくりこれを執行機関とし、主将、副将、チーフマネージャー、学年代表によつて構成され、大筋は総会で定め、細部決定、執行はすべてこの委員会で行なうことになつた。

なお、新しい現役主将は経済三年三浦である。

(一期 嘉納)

事件の問題点

昭和三二年YWVが創立されて、今年は満十年になる。この間に七期生、百余名のワングルOBが誕生した。そして現在も、YWVは百名近い部員で構成された学内でも有数なサークルである。

さて創設十年にして起つた。

た今回の部の混乱に対して、

我々OBもいろんなことを考

えさせられた。

YWVの創設当時、サークル理念は、既成観念にとらわれない、広く、自由に、発展的にという考えに基づいていた。しかしOB会としては、現役に対する全くの不干涉主義をとつてゐた。

ところで今年になつて現役部に統いて起つた出来事、すなわち、(1)春合宿事故、(2)七期生の会計に関する不祥事、(3)機関誌スカイラインの発行途絶、そして(4)今回の問題と

ゲル一期生が卒業し、OB会

なるものが生まれた。OB会

は初期の親睦団体から、現在

のOB独自のワングル活動の

団体へと発展してきた。この

OB会は、現役のワングル部

に対し、創設当初の部の自由

なワングル活動精神を尊重

して、部活動には全く会入し

なかつた。

然るに、この一・二年、O

回の問題は起つたわけである。この事件について、OB部と話し合う機会が多かつた。これらの機会を通して、OBの中には現役部の状態を批判的に眺める人があつて、いた。しかしOB会としては、現役に對し全くの不干涉主義をとつてゐた。

会事務局は部内の山派、里派といったものゝ単なる対立ではないと見ている。この事件に至るまでの会計、部誌、合宿事故等、全て共通の原因があるのではないか。それでは、部員のサークル意識の低下又は欠如と言えると思う。部が大衆同好会になつてゐるようと思われる。

すなわち会員は、定められた会費を払つて在席し、引き換えに会からは種々の便宜を受ける、ただそれだけの部員が多くなつてゐるようと思われてならない。山行、キャンピング等の技術を覚え、部の装備を自由に使い、ワングル部員といふチョット格好いゝ肩書きもち、あとは自分の好きなように野行き山行などといった感じである。このように決めつけるのは現役諸氏には酷であるが、これらを強く否定してサークル活動を推し進

めていこうとする気持は弱いようと思う。

しかし一部には、特に役員の中には、このこわれかけた部を建直そうとする人達が何人かいた。これらの入達の考えは、彼らのグループとし会下又は欠如と言えると思う。

(三年生の集まり)では議論されたようだ。しかし部員全體に問題意識を持たせるような方法は何もとらなかつた。

そして部の執行機関である会では、意見の対立は感情的な対立に発展していた。こうして部刷新の運動は、部の役員の中で起りながら、三年生の上会だけに内攻し、部員全員に考え方させる前に、多数の保守派に敗れたのである。

これはOB会が現役を監督するというのではなく、OB、傍局は、いろいろ話し合つた。その結果、ワングルのサークル理念があいまいであつただけに、創立当時の意図していきたワングルと全く異質なサークルになつてしまふ恐れがあることが指摘された。

すなわち同じYWVの卒業生でありながら、極論すれば、共通の広場を全く持たないということにもなりかねない。これでは困るということになり、OB会は、現役部に対しても従来のモンロー主義をして、現役との話し合いの場を持つべきだということが決まり、OB会は、現役部に対して、現役との話し合いの場を下さい。(六期 密局)

いる。先ずこのような問題が三年生のみに内攻し、感情的対立にまでなつたのは、部の組織に欠陥があつたとして、部の組織から改革を始めた。そしてとにかく暫定的な組織のもとに夏合宿だけは行なつたようだ。

この事件についてOB会事務局は、いろいろ話し合つた。OB・現役が相携えて、YWVのOB・現役が相携えて、ワングル運動を発展させたいと願うからである。

現役部の一日も早く、今の混乱から自主建て直しを願つてゐる。(二期 宮崎)

編集局より

事務局の若返りに伴い、従来米屋氏の手をわざわざしておりますOB会報の編集が、次号より小生に委ねられることになりました。ふつつかながら、前任者同様まじく御協力の程お願い致します。
今後は現役側へもOB会から投稿したいと考えておりますので、どんどん原稿をおよせ下さい。(六期 密局)

春合宿事故

を顧て

現役に対する要望

昭和四十二年三月、現役の四国春合宿においてテント焼失事故が発生して以来、我々OBは事務局会にて事故の真因を究明すべく機会あるごとに検討を重ねてきた。社会的には小さな事件であつたが「春合宿事故報告書」にも明示されているごとく、現役の真摯な問題追求の態度に接し、また事故を契機としてワングル活動の諸々の問題の再検討がなされている現状をみると、我々にとってこの事故は反省と前進をもたらす良き素材であつたといえよう。

忠うに「遭難」(今回の事故が定義的に遭難に該当するかどうかは別として)という最悪事態の発生は「過剰遊戯」

という反社会性に対する批判を巷間に巻き起こすことは必定であつて、かかる場合の行動の正当性を立証する手立ては現状では皆無といつてよい。

したがつて社会的行為の基本は、全体の中の規律の遵守にあり、単なる過失に起因した事故でもそれは社会において本質的には悪であることを自覚して、日々の行動の規範を形成し、社会との調和を計る努力を怠つてはならない。そしてワングル活動もまた社会的行為である以上、反社会性を生むような制度および心の弛緩は厳に戒めるべきである。

記
一 団体行動における規律を計れ
(1) 諸規則を遵守しているか
(2) ワンダリング中においても社会の一員としての自覚をもつてゐるか
(3) 連帯意識に欠けていないか

「春合宿事故報告書」が繋

急に解決を要すること、容易に実行しうることに限つて諸対策として打ち出していることは不満ながらも実際的ではあるが、もとより抜本的対策

があるが、もとより抜本的対策として打ち出していることは不満ながらも実際的ではあるが、もとより抜本的対策

(1) 上級生の指導力が欠けていいいか
(2) 組織的教育がなされていられるか

(3) マニュアルを作成して技術指導を徹底せよ

の樹が疎かにされることのないよう切望するとともに、我々の検討の結果をも併せて、今後の指針として、また諸対策の補足として現役諸氏の参考に供し、かつその実行の検討をこゝに要望する次第である。(三期 井田)

三 装備の拡充を計
(1) 活動方針に基づく装備の長期購入計画を樹立せよ

(2) 装備の質的調査研究を行ふ
(3) 共同装備および個人装備の標準化を計れ

四 執行部は今回打ち出された諸対策のfollow-upをさせよ

五 遭難対策を再検討せよ
(1) 諸規則を遵守しているか
(2) ワンダリング中においても社会の一員としての自覚をもつてゐるか
(3) 連帯意識に欠けていないか

二 ワングル活動における技術的面を充実させよ

妙高高原笹ヶ峰に決定!!

山小屋建設委員 郡司 (四期)

O B 会報（第五号）で山小屋建設準備委員会の山小屋建設調査報告の答申と、山小屋建設準備委員会が発展的に解消して山小屋建設委員会が発足した経緯まで報告しましたが、その後の委員会の活動報告を行ないます。

第一級候補地について、現役側委員会四一年八月に銀山平（奥只見）、十月に笹ヶ峰（妙高）を総合的に詳細な現地調査を行ない、次の各項目について委員会で検討した結果は左記の如くであります。

調査項目

1. 交通機関、徒步距離、所要時間、積雪期の状況と安

2. 境地の生活環境、自然環境、人的環境。

3. 周辺のワンダーリングコース、募営地、スキー場、ツアーコース、冬山。

4. 現地の建設請負会社、建設単価、工期。

5. 土地売買・貸借の問題、価格。

6. 今後の観光開発計画 調査結果

☆ 銀山平

春から秋までは枝折峠経由

のバスを利用すれば問題ない

が、冬は豪雪のため電源開発が最近一般開放した自動車専用トンネルが唯一のルートで

あり、トンネルを出てから銀

山平まで4ミを越える積雪で、歩行に危険を伴う。豪雪地域

であるから小屋の除雪など生活環境はきびしい。自然環境はすぐれおり静寂で周辺のワンダーリングコースに恵まれている。土地購入の価格も格別に安い。ただし建設には耐豪雪用に材料費が普通の二倍かかる。近い将来観光開発の行なわれる可能性が大きい。

☆ 笹ヶ峰

春～秋は定期バス就行。冬はバスが妙高国際ロッジまでで、先はリフト利用。最初の予定地池の峰付近は水場がないと西風が強くて冬は雪が吹きだまりになる心配がある。

積雪は4ミになることもある。

周辺のワンダーリングコースも相当考えられる。スキー場、

ツアーコースも多い。土地は早稲田大の例があり、格安に貸借できる。建設会社は杉野

1. 山小屋建設予定地

妙高高原笹ヶ峰

2. 建設スケジュール

四一年一二月～四二年一月

冬期の現地状況調査

四二年夏 水場確保の現地偵察、土地貸借契約、山

小屋予定地の整地

四年春 建設会社と請負

発進む見込みであるが、小屋予定地の付近はその影響も少ないと思われる。

以上の点から銀山平は冬期の交通機関に問題があり、笹ヶ峰は水場の確保に困難があることが明らかになつた。笹ヶ峰の水場は周辺を広く調査すれば解決できるものと考えて、山小屋建設委員会は四一年一月一三日の現役・O B 合同の総々会で笹ヶ峰が山小屋建設予定地に最適の処として答申し、左記の事項が採択された。

1. 山小屋建設予定地

2. 建設スケジュール

四一年一二月～四二年一月

冬期の現地状況調査

四二年夏 水場確保の現地偵察、土地貸借契約、山

小屋予定地の整地

契約

四三年夏 山小屋建設

四三年秋 山小屋落成

3. 費用および資金

調査費 円

建造費 円

総額 円

内現役負担分 円

OB負担分 円

4. 土地

新潟県中頃城郡妙高高原町

旧杉野沢財産組合所有地を

貸借する。

5. 借地代

近くの早稲田大の例

坪を年 円で借用、周

囲 坪専用私有許可

6. 山小屋の設計

六期の久野君のアイデアを

もとに後日詳細は検討する。

7. 山小屋使用細則

後日提出する。

その後四二年一月に現役・
OB側委員合同で雀が峰の冬

期偵察を行ない、雪積量が予想以上に多く調査活動に多大の苦労が伴つたが、結論として次のことことが判明した。最初予定していた池の峰バス停付近は西風で雪の吹きだまりになり不適当であり、水場のこと考慮すると、(A)池の峰頂上の湿原、(B)池の峰東側三本木方面、(C)仙人池湖畔のいずれかが適当である。その後妙高高原町役場杉野沢支所長竹田幸雄氏との通信連絡により前記三候補地のうちで(A)は不適、(B)、(C)は水場が考えられ、土地の借用も問題が少なそうなので、今後は現地調査により水場を探し当てることが急務となつた。

中間で、早稲田大の小屋と武庫川女子大の小屋の間に、岡田氏個人所有の土地があり、そこにある古い造林小屋脇に古井戸を発見し、井戸は拡張すれば山小屋の水として十分晴える見通しがついたので、目下岡田氏所有地を二百坪借用したい旨を竹田氏に交渉中である。今後は借用OKの内諾を得たら直ちに土地借用の契約を結び、今年末よりいよいよ山小屋建設資金の寄付を徴収し、明年建設という予定通りのスケジュールで進めていく手筈となつていますので、会員諸兄の絶大なる支援を期待する次第です。

合宿の帰り新幹線の中でニンニクの話が出た。ジンギスカンが好評を博したので月例Wにとり入れることになり九月例会の企画ができた。

当日夢よもう一度と合宿で当日夢よもう一度と合宿でジンギスカンを食つた五人中四人までが顔を出し、他に六人の参加者があり盛会であった。

やけに暑い日であった。アブローチからすでにフーフー言い、うしろの方から食うもの早く食わせろなどと不平も聞えてきた。葛葉川本沢に入ると、多少涼しかつたが汗は盛んに出た。例によつて月例では間食がほとんどなく、肉につられて頂上まで。

※十月二十九日 武甲山

L米屋、宮崎

二人だけの静かな山を混ぜかえしてきました。

成吉思汗山行

密島 (六期)

十二時近くになるとすき腹を

かゝえて小滝を登り岩をこえ

て、水を飲んではまた登つた。

他のパーティが飯を食つてい

ると生つばを飲みこんでなる

べく見ないようにして通りぬ

け、また登つた。ようやく水

も渦る地点にたどりついたが

適当な場所がなく、リーダー

が探していると皆ブツツとし

てだまりこくつてつつ立つて

いた。一時頃ようやく仕度が

始まり、例の宮崎式スペシャ

ル成吉思汗鍋を囲むと元気を

とりもどし、二キロのマトン

に野菜を思いついにつついて

たいらげてしまつた。マトン

がスジばつていたのはまずか

つたが、味はよく、ニンニク

はみじん切りにして混ぜた他

に、スライスして焼いたので

刺激が少なかつた。清涼飲料

も出たし、飯もたいた。食後

には果物とコーヒーも出た。

おもむね満足して二時半ごろ

最後のガレ場にいどんだ。

丹沢の沢の常で最後は必ず

いやなガレとヤブの中の直登

を強いられる。今回も例外で

はなく約三十分ほどだつたが

皆ヒーコラやつて尾根道にた

どりついた。とたんに「もう

月例なんかに来るもんか」と

不平が出た。しかし予定では

こから三の塔まで往復して

下るのだと言うと全員頂上に

向つた。だれ一人「おれはこ

こで待つてゐる」などと言つ

ものがいなかつた。OB会も

立派なもんだと感心した次第

である。

下りは三の塔から大倉まで一時間で下つてしまつた。この調子ではOB会もまだまだ現役と対にやつていけそうであります。多少アルバイトを強いられたコースだつたが、これにこりす今以上に積極的に月例に参加して、OB会員の親交を深め、OB会の覇氣を示してもらいたいと願つて止まない。

どうも御苦勞様でした。

北から

地方近況

南から

※御無沙汰致しております。

四月二六日無事長女誕生し、ふゆきとどきな母親ながらなんとか育てておられます。しかし勤めておりますから子供の世話は母まかせで育てるなん

て偉そうな事はいえません。

こぶつきゆえ夏期休暇にはいりましてもどこへも出られ

ず、あわれな身の上、お察し下さいませ。(三期 塩谷一
旧姓甘粕)

※夏合宿は参加できず残念

でしたが、小生もこちらの山

々を歩き回っています。大雪

でござりますが、遠いところではヨセミテに二度春と夏に行

きました。上高地と大きな湖

沢とツルギを合わせたような

デッカイところで、秋にも行

きたいと思つております。十

月には帰りますが、また会

えるのを楽しみにしてます。

仕事もやつておりますので御

安心下さい。カリフォーニア

にて(二期 塩村)

さてしておりますが、学生時

代よりも色が見違えるばかりに黒くなつておりますので御安心下さい。(六期 秋山)

※遠い所へきてしまい、皆様におめにかかるチャンスがなくなつたのがひどく残念でございます。初めての夏合宿が無事楽しく終わりますよう、かけながらお祈り申し上げます。(四期 大黒一 旧姓橋出)

※皆さんお元気ですか。当地に来て近い山と海には行つておりますが、遠いところではヨセミテに二度春と夏に行きました。上高地と大きな湖

沢とツルギを合わせたような

デッカイところで、秋にも行

きたいと思つております。十

月には帰りますが、また会

えるのを楽しみにしてます。

仕事もやつておりますので御

安心下さい。カリフォーニア

すぎのためか、イカイヨウと

十二指腸カイヨウだそうで、

目下禁酒禁煙ですが、他の所

は元気なので夏も生きとおせ

ました。ワングルもゴタゴタ

しているようですがせいぜい

活を入れて、なくなつてしま

わないようお願ひします。

(五期 諸角)

※夏合宿の計画、楽しそう

で、ぜひ参加したいと思いま

すが、すでに別のプランを立

ててしまつた後ですので残念

ながら参加できません。六日

より(注、八月のこと)鹿島

培へ出かけるつもりです。し

ばらく皆さんとお会いしてい

ないのでとても会いたいです。

(二期 岩村)

※合宿の頃、会員の諸兄姉

それぞれに自然界で活動して

おられたようです。

白峰三山 8/8/8/13頃

二期 萩野

北海道 8/20まで

北海道 八月中頃

六期 古莊

飯豊・朝日 八月初め

七期 坪

旭岳 8/5~8/6

六期 秋山

御嶽 7/28~7/31

五期 高橋

裏銀・雲の平縦走 八月初

五期 谷合、高須

長期旅行(場所不明)

七期 岡村

まだまだ色あせたYVVの

マークは全国各地を歩き回つ

ていることでしょう。紀行文

なり、お便りなりを編集局ま

でお寄せ下さい。古き山の仲

間達に「われ健在なり」を示

そうではありませんか。

◎月例ワンドーリングをはじ

めて早二年。その間には参加

者は少ないようですが、とい

う事は、ワングルを卒業する

全々出かけなくなるのではな

いかと思つていたら、そうで

もないようです。みんなけつ

こうちよこちよこと出かけて

いるようです。それならそれ



アレ！
コレ！

かつていないと、言つていた

が、それと同様にOBもそん

なボーズをしているのでしょ

うか。

◎一〇年たつてワングルの

ワンドーリング数も相当な数に

なっています。しかしこのた

くさんのワンドーリングのほと

んどがみんなの目の前にあら

われることなく、ある特定の

人の心にかすかに残つている

だけです。そしてあるものは

その人からも忘れされてい

るだけです。今や一〇周年をむ

かえ、記念刊行物が出ようと

しています。よき自分のワンド

ーリングをふりかえつて、こ

こにいくらかでも示しておい

たらどうでしょうか。

◎山北の近くに大野山があ

のかつこいい肩書きにしかつ
はワングルというものを自分

みんなに氣どらないと思つてい
たのに、ある人が、今の現役

ます。大体ワングルOBはそ
のたまに、ある人が、今の現役

はワングルというものを自分

ります。こゝは五月にワラビでいっぱいになります。この間は成吉思汗月例をやつたから、来年五月はワラビ狩り月例なんてどうでしよう。

◎ 水戸の先、東海村の近くに分工場ができたため今年は行つたり来たり。おかげでむこうで休みをむかえるとあちこちと、こちらからはなかなか行けそうもない所に行けました。ある時は歌と歌との間が十六キロもあるという所に出かけ、その中ほどにある信号所で降してもらい、草野心平が名付けたという夏井川渓谷背戸峠廊に出かけました。丹沢なんかの沢より深遠として実に静かでした。

◎ ワンゲルに入つた時の歓迎ワンダリングを第一回としてかぞえはじめ、ワンゲルに関係ないものも含めこの五月に一〇〇回をむかえました。その記念に、ワンゲル複合宿

の最初の集結地である安達太郎山に出かけました。あいもかわらず山はあり、すてきなお鉢もそのままに…あのさわめきもなく、ゆっくりと堪能してきました。あゝ年をとつた事／＼

◎ 県下の他の大学のワンドラーと話す機会を得ました。その時に国大の人は、確かになるほどなと思う事を言うけれども、実際にはそれが実行できていなから評判わるいよ、という話が出ました。確かに以前に比べ、思考面では成長してきたと言えると思うが、行動面は足踏み、もしくは後退という感じがないでもない。

（勤務先）日立中央研究所

四〇八九 牧原
（住所）園分寺市

（勤務先）日立中央研究所
五一〇一 谷合
（住所）世田谷区

（電話）国分寺
（電話）中野区
（米屋）
乞う御期待!!



OB会報 第八号

編集責任者 米屋・密島
発行責任者 松本

印刷 板橋謄写堂
電話 五〇二一〇一六

恒例の総会を迎える季節とな

編集後記

りました。

OB会報も夏に引き続いて第八号を発行することができます。私もそろそろ老人の域に入らんとし、本号をもつて新々気鋭の密島君（六期）に交代することになりました。

老兵は消えゆくのみ、マンネリ化したOB会報の内容にも、若い息吹が入り込んでくる事と思います。